



4 月初旬の高温で生育が一気に進み、このまま経過すればふじの開花は 4/22 前後の見込みです。(H28 並み) ただし、土壌乾燥が著しく、開花の不揃いが心配されます。開花予定 10 日前から適度なかん水等を実施してください。加えて、管理作業・薬剤散布は“平年より 10 日早い”意識のなかで進めてください。

春の重要病害である黒星病・うどんこ病予防のため、今回から 5 月中旬までは防除間隔を 10~12 日程度として進めてください。

## りんご

りんご	ふじ(平岡)		
年度	発芽	開花	満開
H27	3/31	4/27	4/29
H28	3/31	4/21	4/23
H29	4/7	5/1	5/5
H30	3/29	4/22?	4/25?

～ 参考 ～

南部と北部地帯の生育差は小さい状況です。土壌条件等で差はありますが、南部地帯で 4 月 20 日過ぎ、平岡地帯で 4 月 22 日過ぎを見込んでいます

## ◆開花期の薬剤散布

散布時期：蕾のセパレート状態（中心花と側花の蕾が離れた状態）が確認された以降から、ふじの花が 1~2 輪咲いた時が適期です。

散布時期：4/20 ~ 4/25 頃

\* 上記は目安です。各園の生育状況を良く確認してから散布してください。

散布薬剤：水

100 リットル

展着剤

10 ml

オンリーワンフロアブル

50 ml (7 日前、3 回) \* 注意事項①参照

トレノックスフロアブル

200 ml (30 日前、5 回)

サムコルフロアブル 10

20 ml (前日、3 回)

対象病害虫：黒星病・黒点病・うどんこ病・赤星病・ケムシ類・ハマキムシ類

10 アール当り散布量：400 リットル

散布日：4 月 日

散布量： リットル

【注意事項】 \* 必ずお読みください。

① 黒星病対策：オンリーワンフロアブルに代えて、スコア顆粒水和剤 3,000 倍（14 日前、3 回）を使用する。

\* 黒星病強化防除体系については園芸課担当までお問い合わせください。

② アブラムシ類対策：ウララ DF2,000 倍（14 日前、2 回）を加用する。

③ 訪花昆虫の保護のため指定薬剤以外使用しない。

④ 収穫中の作物等への飛散に注意する。

⑤ 不明な点は、園芸課担当までお問い合わせください。（TEL23-3933）

◆ 落花後の薬剤散布（5 月初旬）は次頁をご覧ください。

## ◆落花後の薬剤散布

散布時期：前回より12日後とする。（ふじの落花後）  
 開花期の薬剤散布が遅れた場合は、今回の散布を前倒して実施する。

散布日：5月 日

散布量： リットル

散布時期：5/1～5頃 \*注意事項③参照  
 \*上記散布時期は目安です。各園の生育状況を確認してから散布してください。

散布薬剤：水 100リットル  
 展着剤 10ml  
 アスパイア水和剤 200g（30日前、3回）

対象病害虫：黒星病・黒点病・赤星病・うどんこ病

10アール当り散布量：450リットル

【注意事項】 \*必ずお読みください。

- ① 黒星病対策：アスパイア水和剤に代えて、スコアMZ水和剤500倍（30日前、3回）を使用する。
- ② ケムシ類対策：フェニックスフロアブル4,000倍（前日、2回）を加用する。
- ③ 結実後の生理落果助長の回避のため、5月下旬までは有機リン剤（ダズバンDF、サイアノックス水和剤、ダイアジノン水和剤等）は使用しない。
- ④ 6月末まではサビの発生しやすい時期なので高温時の散布は避ける。
- ⑤ 不明な点は、園芸課担当までお問い合わせください。（TEL 23-3933）

【ふじの人工授粉のポイント】 \*下記をお読みください。

- ① 人工授粉を実施する時は、気温・湿度・天候等の授粉環境を複合的に考慮する。⇒ 降雨・強風・極端な低温（最高気温20℃以下）・極端な高温（30℃以上）の日はできるだけ避ける。
- ② 開花始めから満開期までが授粉能力が高い ⇒ 開花始めから満開までの早い時期に実施すると結実率が高まる。
- ③ 授粉後3時間は極端な低温とならないような日・時間帯を選択する。
- ④ 授粉後に降雨があった場合は、3時間以上経過していれば大丈夫であるが、3時間以内に降雨があった場合は再度やり直す。
- ⑤ 開花バラツキが心配される。土壌乾燥が著しい場合は、開花予定の10日前（4/10過ぎ）から灌水を実施する。

（参考）中生3種とふじの交雑和合性

♀	♂	ふじ	秋映	シナノ スイート	シナノ ゴールド	メイポール
秋映	○	×	○	×	○	
シナノスイート	○	○	×	○	○	
シナノゴールド	○	×	○	×	○	



### ◆ 凍霜害を受けた場合の応急技術対策

1. 胚珠の黒変したものは、落果するので、被害程度に応じて摘花(果)の強さを加減する。
2. 被害を受けたものは、サビ果・不正形果が多いので、摘果に際しては特に傷の少ない長めの正形果を残す。
3. 摘果は結実が確実となったらすみやかに行き、少なくとも満開30日以内に終了する。